

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072500525		
法人名	社会福祉法人 道海永寿会		
事業所名	グループホーム いいいの家 鐘ヶ江		
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字鐘ヶ江249-1 (電話) 0944-88-0807		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価確定日	平成21年12月26日

【情報提供票より】(平成21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	11 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 11 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋瓦葺平屋 造り
	1 階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (11月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86,3 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道海クリニック・高木医院・松岡医院・岡歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人「道海永寿会」を母体とする、グループホーム「いいいの家 鐘ヶ江」は、長閑な田園風景の中に立地しており、同法人の有料老人ホームが併設されている。余裕ある広さを持つ敷地内には、四季折々の木々(桜・梅等)や菜園での野菜づくりが行なわれており、また散歩道の整備により、戸外に出やすい環境にある。多様な福祉サービスを展開している法人としてのスケールメリットを活かし、職員育成への取り組みは充実しており、スキルアップやモチベーションの確保等、働きやすい職場環境づくりにも熱心である。また、認知症サポーター養成講座や介護予防教室の開催等、地域への情報発信にも積極的な取り組みがあり、行政との協働関係が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題として、一部センター方式の活用を試行する等の取り組みがある。また家族への報告の充実については、継続しての検討課題となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価結果をホーム内に掲示し、自由に閲覧可能としている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議の中で、行政の要請により、同法人のグループホーム「いいいの家」と合同で、認知症サポーター養成講座を開催し、家族・地域住民の参加を得ている。ホームの状況報告等を行い、意見交換を行なっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	法人として、受付担当者・解決責任者・第三者委員会というシステムがあり、組織委員会が設置されている。また意見箱を設置し、意見の収集に努めている。家族との率直な意見交換や、家族間の積極的な交流の場として、家族会等の発足に向けた支援・調整を検討して欲しい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議等の機会を活用し、法人行事の案内や子供会の出演依頼(子供太鼓・子供御輿)を働きかけている。行政の要請により、同法人のグループホームと合同で、認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民の参加を得ている。また老人会・自治会等の要請により、職員が役を演じる介護劇の公演や、脳の健康教室等を開催している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人理念・基本方針ともに、地域密着型サービスとしての意義をふまえた内容となっており、玄関に掲示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念・方針を玄関ホールの、目に付きやすい場所に掲示し、出勤時に確認できるようにしている。研修の場において、また日々のケアの中でのOJTにより、理念の浸透・共有に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	運営推進会議等の機会を活用し、法人行事の案内や子供会の出演依頼(子供太鼓・子供御輿)を働きかけている。行政の要請により、同法人のグループホームと合同で、認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民の参加を得ている。また老人会・自治会等の要請により、職員が役を演じる介護劇の公演や、脳の健康教室等を開催している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価結果を玄関ホールに掲示し、自由に閲覧可能となっており、また運営推進会議において報告している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議の中で、行政の要請により、同法人のグループホーム「いいいの家」と合同で、認知症サポーター養成講座を開催し、家族・地域住民の参加を得ている。ホームの状況報告等を行い、意見交換を行なっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

いいいの家 鐘ヶ江

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政の要請により、同法人のグループホーム「いいいの家」と合同で、認知症サポーター養成講座を開催する等、協働関係が構築されている。行政担当者との連携により、相談したり、助言を得る事で、サービスの向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している方がおり、関係機関等との連携により、支援している。成年後見センターより資料やポスターを求め、玄関ホールへの掲示や案内をしている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	法人として、また在宅支援課としての便りを発行している。家族面会時には近況報告に努め、遠方に住む家族へは毎月電話連絡をしている。金銭管理については出納帳を作成し、担当した職員を明確にした上で、家族に確認してもらっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	法人として、受付担当者・解決責任者・第三者委員会というシステムがあり、組織委員会が設置されている。また意見箱を設置し、意見の収集に努めている。		家族が積極的に、安心して、意見や苦情を表出できる環境づくりが求められる。家族との率直な意見交換や、家族間の積極的な交流の場として、家族会等の発足に向けた支援・調整を検討して欲しい。
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の希望やスキルアップのために、法人内での異動が行われることもあるが、最小限となるよう努めている。また働きやすい職場環境づくりとして、親和会(法人全体として、国内外への旅行を実施・親睦会等)による全体での交流を図っている。やむを得ず離職等が発生した場合にも、引き継ぎを充分に行い、サービスの低下とならないよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、法人としての採用規定に沿って実施し、年齢や性別による排除は行っていない。またコミュニケーション能力を重視している。資格取得への積極的なサポート体制があり、介護福祉士等への挑戦を促している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

いいの家 鐘ヶ江

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者虐待防止・身体拘束・人的環境・接遇等の研修を通して、職員への人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として、職員育成への充実した取り組みが行なわれており、特筆すべき点である。年間計画の中で、勤務年数や役職に応じた研修を実施し、伝達による周知を図っている。また新規採用者には、OJT日誌として一日の内容を振り返り、指導担当者からのアドバイス等を受けられるよう取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	毎年、学習療法研究発表会を実施しており、学習療法を導入している他施設との意見交換等の場となっている。大川市のグループホームの意見交換会を開催し、困難事例等を中心に情報の共有を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	サービス利用開始前に、必ずホームに見学に来てもらい、入居者の方々や職員と接する機会をつくり、雰囲気を感じてもらっている。体験宿泊や入居後の家族の宿泊にも対応しており、安心して過ごせるよう、柔軟な対応が行なわれている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	親しみやすく、安心につながるよう、方言での会話を心がけている。年長者である入居者の方々から、生活の知恵(煮物や酢の物の味付け・野菜作り等)など、教えてもらう場面も多くある。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

いいいの家 鐘ヶ江

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居時に、バックグラウンドアセスメントを実施し、生活歴や職歴、既往歴等を把握し、より本人の全体像に近づけるよう取り組んでいる。また学習療法をコミュニケーションの手段としても活用し、その中で生活歴や思い・意向等、新たに気づくことも多い。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	詳細かつ簡潔な記録が作成されており、精神面や認知症へのアプローチについてもふれられた、個別性ある介護計画が作成されている。本人・家族の意向を大切にし、カンファレンス等において職員の意見を反映している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	基本的な計画実施期間を6ヶ月とし、また状況の変化に応じて、モニタリング・評価を実施し、見直しにつなげている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	法人として多様な医療・福祉事業を展開しており、そのスケールメリットを活かした合同行事の開催や職員育成への取り組みを、サービスの向上につなげている。家族の宿泊や食事への対応についても、柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向による、かかりつけ医への受診を支援している。法人内医療機関である「道海クリニック」をはじめ、協力医療機関との連携により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

いいいの家 鐘ヶ江

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合における対応指針を示し、本人・家族の意向を大切にしながら、家族・主治医・ホームの連携を図り、話し合いを重ねている。法人全体として連携しながら、本人にとっての最善の方法となるよう支援している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	法人及びグループホームの基本理念として、人格の尊重を謳っており、パート職員を含む全職員について、認知症高齢者に対する援助等の研修が、毎年行なわれている。またOJTによる職員への周知徹底が図られている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日々の暮らしの中で、一人ひとりの生活習慣やリズムにあわせて、余裕あるゆっくりとした時間を過ごしてもらえよう取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	敷地内で育てられた旬の野菜(茄子・白菜・ブロッコリー・トマト・きゅうり等)が食卓を飾る事もあり、収穫の喜びを共有している。調理の下ごしらえや味付け、後片付け等に、個々の力を活かしてもらっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者の希望や生活習慣にあわせて、毎日の入浴にも対応している。拒否される方にも、タイミング等を工夫しながら、無理強いとならないよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

いいいの家 鐘ヶ江

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	野菜を切ってもらったり、掃除を手伝ってもらったり、洗濯物をたたんでもらう等、個々に合わせて、力を発揮できる場面づくりが行なわれており、日々の暮らしの活性化につなげている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	広い敷地を有する中に、四季折々の草木や菜園での野菜づくりが行なわれており、また散歩道の整備により、戸外に出やすい環境にある。今後は、個別の外出の機会を充実させる等の取り組みにも期待したい。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	行動傾向の把握や見守りの徹底により、日中鍵をかけないケアを実践している。外出される方には、職員がさりげなく寄り添い、安全面の確保を行ないながら、自由な暮らしを支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、昼夜を想定した避難訓練を、消防署立会いのもと実施している。また毎月1回、緊急通報訓練の実施や、防災研修も行なわれている。職員には、あえて詳細な情報を知らせずに訓練を実施する等、実践的な訓練が行なわれている。AEDや心配蘇生についての研修も行なわれている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分摂取量を把握し、職員間で共有し、健康管理につなげている。水分は一日1000mlを目安としている。必要に応じて、法人の管理栄養士の助言を得ながら、食事形態等、一人ひとりの状態に柔軟に対応している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

いいいの家 鐘ヶ江

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	十分な広さと高い天井により、明るく、開放感あふれる共用空間となっている。木の質感の多用により、温もりが伝わり、また清潔感のある空間となっている。テレビの周りのソファでくつろぐ姿や、一人日向ぼっこを楽しむ姿もあり、一人ひとりが落ち着ける場所を確保している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	和室・洋室の居室設定があり、使い慣れた家具(ベッド・机・椅子・箆笥等)や電化製品が持ち込まれている。個性あふれる部屋づくりが印象的であり、趣味活動に勤しむ姿もあるなど、その人らしい空間づくりへの支援が行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			